

# Feature

## 独自の発想と行動力で、地域から世界を俯瞰する生徒たちのグローバル活動。

2019年度に文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」の指定校になった名古屋国際中学校・高等学校では、産学官を巻き込んだコンソーシアムの構築など、地域から世界を見渡すことができるグローバル人材の育成と教育環境の整備を進めています。持続可能な社会の実現に向け、地域で、世界で、幅広く活躍する高校生の活動をレポートします。



今夏はエジプトを訪問。世界各国で開催されるSDGsイベントに参加して、同年代の仲間たちと国際社会の課題を探究。

加藤晴哉さん／中高一貫コース4年生



北海道で開催されたSDGs高校生未来会議で世界の高校生と意見交流。グループディスカッションでリーダーシップを発揮！

小野アンさん／中高一貫コース4年生



天白川の清掃活動からインタビュー取材まで、中高生ならではの視点で幅広い活動に取り組むSus-teen!(サステーン)。

石川愛子さん／中高一貫コース4年生



▲中高一貫コース生の3人は、中学時代から「Sus-teen!」として幅広い活動に取り組んでいます

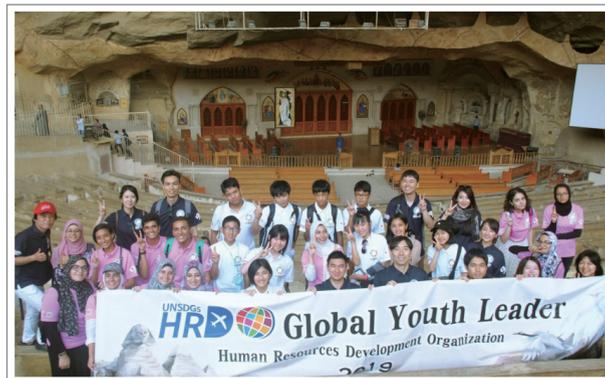
中学2年生の時に、日本青年会議所(JCI)が主催する『グローバルユース国連大使育成事業』に参加したことが、SDGsに興味を抱ききっかけとなった加藤晴哉さん。訪問先のアメリカではさまざまな活動に取り組み、国際社会が直面する課題とその解決策について学習。ニューヨークにある国際連合本部で行われた「世界会議」で、プレゼンテーションも経験しました。「僕たちのグループは、17番目の開発目標『陸の豊かさを守ろう』をテーマに議論しました。世界各国から集まった人に向けて、英語でプレゼンテーションしたことは、とても貴重な体験になりました。」

加藤さんが初めてSDGsという言葉に触れたのは、中学1年生の社会科の授業。当時は深く関心を持ちませんでしたが、グローバルユース国連大使として、さまざまな視点から国際社会の課題について学んだことで知的好奇心が開花。中学3年生の時にはマレーシアで開かれたSDGsイベントに参加し、ホームステイをしながらアジア各国の同年代の仲間たちと交流を楽しみました。そして、高校生となった今年の夏はエジプトを訪問。現地の日本大使館やNPO団体の方の話を聞き、14番目の開発目標『海の豊かさを守ろう』について

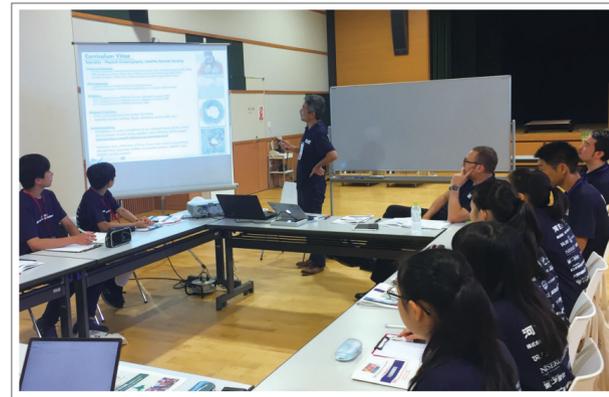
カイロ大学の学生と議論を重ね、エジプトと日本の海洋環境の違いや共通の課題について探究。「実際に現場に足を運んで、世界各国の人たちの考えを知ること、問題に対する理解が深まりました」と、充実した7日間の体験を振り返ります。

SDGsに関する課外活動を継続する中で、英語学習に対するモチベーションも高まっています。「中学生の時は得意ではなかったけれど、英語で議論する機会が増え、少しずつ自信が芽生えています。名古屋国際中学校・高等学校には多国籍の先生や生徒が多いので、これからも英語力と国際感覚を磨いていきたい」と意欲を見せる加藤君。社会科の黒宮祥男先生も「彼の長所は『壁』を作らず、人の輪に溶け込んでいくこと。それはグローバルな視点を持った地域のリーダーに不可欠な要素です」とその「可能性」を高く評価します。

「世界各国で自分と同年代の人たちが、社会課題の解決を目指して幅広い活動に取り組んでいます。日本にいる自分も常に世界に目を向け、SDGsの達成につながる活動に関わっていきたい」と目を輝かせる加藤さん。卒業後は海外の大学に進学・留学するという目標を実現させるつもりです。



▲エジプト訪問時の記念スナップ。現地ではカイロ大学の学生と行動をともにしました



▲すべて英語で行われた気候変動の専門家による講話

今年8月に北海道二セコ町で開催された「SDGs高校生未来会議」。世界各国から100名の高校生が集まり、SDGsの達成について議論するイベントに、名古屋国際高校からも生徒4名が参加しました。

小野アンさんは13番目の開発目標『気候変動に具体的な対策を』について、ハンガリー、フィンランド、韓国、日本の高校生とディスカッション。プラスチックごみの問題を切り口にした解決案をプレゼンテーションしました。「海外と比較して日本はペットボトル飲料の自動販売機が多いので、水筒に飲み物を注ぐシステムに変えることで、プラスチックの利用を減らそうという提案をしました」。小野さんは中学入学まで海外で過ごした帰国生。「マイ水筒、を持ち歩く習慣は世界的に広がっているようで、日本との違いに着眼した小野さんならではのアイデアでした。」

グループワークでは得意な英語力を活かし、自然な議論をスムーズに進める「通訳兼進行役」としても活躍。引率した黒宮祥男先生は「様子を見守っていた各国の教員や主催者も、『語学力はもちろんでリーダーシップが素晴らしい』と褒めていました」と目を細めます。

以前は人前で話すことが苦手だったという小野さんですが、『Sus-teen!』の活動を通して積極性が向上。「きっかけは、いろいろな場所で堂々とプレゼンテーションをするメンバーの姿を見て『自分もこうなりたい』と思ったこと。少しずつ行動力や発信力が身に付いていると感じます」と小野さん。また、体験を重ねるたびに視野が広がっていることも実感しています。「日常生活で気になったことはメンバーに報告して意見を聞いてみたい」と思うようになり、いろいろな分野に興味・関心を持つようになりました」と笑顔を見せます。

現在もフィンランドの生徒とメールで連絡を取り合うなど、たくさんのお会いに恵まれた『SDGs高校生未来会議』。なかでも大きな刺激を受けたのは、企業とのコラボレーションでSDGsへの理解を広める「かるた」を制作した札幌の高校生グループと知り合ったことでした。「自分たちと同じように、社会問題に関心を持って活動する高校生とのつながりが、できて嬉しかったです。『何か一緒にできることがあればいいね』と話したので、いつか実現したいです」と目を輝かせる小野さん。今後の活動の広がりに期待が膨らみます。

文部科学省による『地域との協働による高等学校教育改革推進事業』のグローバル型指定校として、本校が産学官とのコンソーシアムを形成して研究開発に取り組む「持続可能なランドスケープの設計～天白川水系の起点となったのは、『Sus-teen!』のメンバーが2年前から継続している天白川の清掃活動です。『社会課題について学ぶ校外学習で佐久島(西尾市)を訪れた時に、海岸に漂着する

ゴミの多くが本土から流れていることを知り、『自分たちに何ができるだろうか?』と考えたことがきっかけでした」と振り返るのは、設立メンバーの一人でリーダーの石川愛子さん。活動モットーは「思い立ったら即行動」。メンバーが自ら国土交通省と交渉し許可を得て、学校近隣の流れる天白川のゴミ拾いを始め、その後も中学生・高校生ならではの着眼点と抜群の行動力を発揮して、多彩な社会活動に取り組んでいます。



▲2017年から継続している天白川の清掃は、『Sus-teen!』の原点ともいえる活動です

さまざまな分野で活躍する人物を取材し、インタビュー記事とともに編集後記にまとめる『Sus-bito(サスビト)』も、その発想力や実現力が表れたプロジェクトのひとつです。「その人がどういった経験をして、何を考え現在に至っているのか。共通点や違いを知るために、必ず同じ質問を投げかけるようにしています」と石川さん。これまでのインタビュー対象者には、トヨタ自動車の豊田章男社長やカレーハウスCoCo壱番屋の創業者・宗次徳二さんなど、そうそうたる名前が並びます。取材を重ねるたびに、心の中で大きくなっていくのは「どの方も眼差しが温かく、心の根底にある『やさしさ』が、す

べての原動力になっているのでは」という思い。そして、社会課題を解決するためには、「こういう社会になったらうれしいな」と自分自身が楽しむ気持ちを忘れてはいけないと気づいたことは、『Sus-teen!』の活動内容を充実させるためのヒントにもなったようです。

「SDGs活動では、開発目標をどのように達成するかに視点を置きがちですが、持続可能な社会を作る『人』や、そこで生活する『人』を知ることが何よりも重要だと思います」と石川さんにとって、『Sus-bito』はSDGsの達成につながる大切な活動。「これからもたくさんの方に来て話を聞き、いつか書籍にまとめられたら」と目を輝かせます。

## 「CHANGE 2020」

文科省による事業採択を受け  
高等学校 普通科をリニューアル

持続可能なグローバル社会に対応する新しい普通科へ。  
2020年度から始動する  
「グローバル探究コース」  
「国際バカロレアコース」



▲英語科の内藤圭祐先生

文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」の採択を受け、名古屋国際高校では2020年度に教育課程を改編。普通科にグローバル探究コースと国際バカロレアコースを設置し、国際教養科との2科3コース体制で、持続可能なグローバル社会の実現に対応する教育体制の構築を推進します。

新設する普通科グローバル探究コースでは、持続可能な未来社会の構築をテーマとした探究型のカリキュラムを実践。自治体・大学・産業界とコンソーシアムを構築し、アクティブラーニングを重視した主体的な学びを通じて、グローバルな視点を持った地域のリーダー育成を目指します。各教科にSDGsや地域協働活動に関連した教材を採り入れ、論文作成やプレゼンテーションなど、学習内容を論理的にアウトプットする技法を学びます。

本校の教育の特色がさらに進化。  
地域から国際社会を探究する  
「グローバル型の教育課程」を構築。

一方、普通科国際バカロレアコースでは、多国籍ネイティブインストラクターの少人数指導による、世界水準の高度なカリキュラムを展開。世界各国で大学入学資格として認定されている「国際バカロレア資格」の取得に挑戦し、海外の大学やスーパーグローバル大学への進学を希望する生徒をサポートします。

「本校の教育の特色である国際教育や社会活動を、「グローバル型の教育課程」として体系化することで、全校での取り組みに進化させていく」とリニューアルの狙いを語る内藤圭祐先生。今後は国際理解研修(高2)の訪問地や活動も、グローバルな内容への変更が予定され、進路選択に向けたキャリア教育にも注力。中高一貫校の特徴を活かし、中学生と高校生と一緒に学ぶ場を増やすなど、独自の教育課程を構築して持続可能な未来社会の担い手となる生徒を育成します。